

8月 月例研修会
草津水生植物公園と
琵琶湖博物館の見学

8月3日(水)。参加者21名。マイクロバスにて出発。バスの中では、琵琶湖に関連する予備知識をクイズ形式で説明した。

「草津市立水生植物園」で小山さんとボランティアガイドさんとに合流し、施設見学に入った。

今回の案内担当の小山さんは草津市在住で、施設の下見では何度も足を運んでもらいました。

行く前に予め聞いていたが、この時期、公園前の水辺には咲き乱れるハスの花が見られるのだが、今年はそれが全く見られなかったのが残念でした。

園内で蓮や睡蓮を觀賞し、ロータス館で映像を見た後、ボランティアガイドさんの案内で温室に入る。朝の光を浴びて、赤・ピンク・白・黄・青・紫など幾種類もの睡蓮が咲き誇る。花びらは昼過ぎまで咲き、夕方から夜は花を閉じ、3日後には散るといふ。



汚れた泥の中から清らかな花を咲かせる蓮と睡蓮。しかし、蓮(ハス)の原産地はインド、睡蓮(スイレン)

の原産地はエジプトで、この2つは似ているけれども、別の種類の抽水植物だということだ。

仏教でお釈迦さんの台座には「蓮(ハス)」が描かれているが、お経の言葉では、「白蓮華」「青蓮華」「黄蓮華」とかの「睡蓮(スイレン)」を示す言葉が使われて伝わってきている。なぜか。ここを訪れてこの理由がはっきりと解った。

お釈迦さんが生きておられた紀元前6世紀のインドでは、インド古来の蓮(ハス)もエジプト原産の「睡蓮(スイレン)も同じ種類のものともみられたようだ。ところが、仏教が中国に伝来する時に、蓮はレンコンとして砂漠を超えて中国に持って行けたが、睡蓮は根っ子なので砂漠を超えられなかったのだ。

睡蓮はヨーロッパに伝わり、蓮は *Lotus* と呼ばれ、睡蓮はそれと区別して *Water lily* と呼ばれた。

昼食はほとんどの方が弁当持参だったが、数名の方が博物館内のレストランでとられ、ブラックバスの天井は、臭みがなく淡白でほんのりと甘みを感じる一品だったとのことでした。

「琵琶湖博物館」は、本年7月14日にC展示室と淡水水族展示室がリニューアルオープンした。

A展示室では、400万年前に出来た琵琶湖が北へ移動し、水枯れ湖になった時期を経て、比良山にぶつかり今の姿になった変遷がよく理解できた。

また、300万年前の地層から発見された恐竜の化石やゾウ歯の化石や復元された巨大象の標本もあり興味深く見ることができた。

B展示室では、世界最大の淡水貝塚のはぎとりや江戸時代湖上交通の主役だった復元した丸子舟などの展示が見られた。

C展示室では、ヨシ原に分け入った時の世界を体験できる展示などもあった。

リニューアル工事で大変充実したと感じられたのは日本最大級の淡水の水族展示室でした。

ビワコオオナマズの水槽は大きくて、湖底から水面をながめているようでした。その他、ビワマス、イチモンジタナゴ、ゲンゴロウブナなど80種以上の淡水魚の泳ぐ姿が見られた。

また、世界で最古の湖のバイカル湖のバイカルアザラシ2頭も愛嬌のある姿を見せてくれていた。

さらに、沢山並べられた顕微鏡で観察できる部屋もあり、見学に来た小学生たちが熱心に見ている姿が目についた。

今思うこと… “夏以外の季節にもう一度訪れて、水族展示室をゆつくりと見て回り、ブラックバスの天井を食べたいな”



(記：羽尻嵩)